

宮崎杉で教会建設

スズキ建築設計事務所

環境、健康、エコを意識

宮崎県の杉製品を使って教会を建てようという話が千葉県内で持ち上がっている。教会は戦前は木造モルタル建てが一般的であったが、現在は鉄筋コンクリートやれんが造りが多く、木造軸組工法は珍しいため、完成すれば話題となりそうだ。

宮崎県産の杉製品を使って建設される教会は、日本基督教団千葉北総伝導所（千葉県印西市、大串真牧師）の建物で、設計施工は宮崎県産材を長年取り扱っているスズキ建築設計事務所（千葉県柏市、鈴木明社長）が手がける。

「地域に対してはラウンドマーク・シンボルに、また信者さんに対しては環境、健康、エコロジーな教会にしたかった」（鈴木社長）



鈴木社長(右)と杉浦建設委員長

などの願いを込めて設計したのが今回の建物。建設場所は北総線「千葉ニュータウン中央駅」の近く。敷地は314坪で建築面積は約50坪。構造材、内装材とも宮崎県産杉を使い、構造材では柱角は12号、梁は最大450mmで使用量は構造材、内装材合わせて約70立方メートル。内装壁は「信者のきずなを深めるために全員で自然塗料を塗布す

る作業も取り入れた」（同）。

教会の建物にたずさわっている杉浦孝夫建設委員長は、木造軸組工法を採用したことについて「当初、構造躯体も内装材もほかのものを考えていたが、建設委員の話し合いのなかで、木の優しさを感じられるものというところで採用した。当然、予算のこともあった」と話す。

スズキ建築設計事務所が教会の建設を手がけるのは今回が初めてだが、これを機会に他にも手がけていきたい意向。

ちなみに杉浦建設委員長によると、伝導所は日本基督教団だけでも全国に1800カ所ほどあるという。教会

関東地域版

の建設は近く工事に入る。